

## 1 研究テーマ

子どもが自分なりの願いを持って追究し、人やものとのかかわりを深めていく生活科・総合的な学習の指導はどうあったらよいか

## 2 研究内容

### (1) 研究授業

期 日...平成18年11月15日

学校名...日滝小学校

教科	「 題 材 名 」	学 年	授 業 者
生活科	「ポップコーンやさんをやろう」	2学年	田中久美子教諭
総合的な学習の時間	「みんなでチャレンジ 手話劇」	3学年	中村 新治教諭
総合的な学習の時間	「好きな色 Show & Tell」	6学年	田村 中 教諭

### (2) 研究内容

日滝小学校の研究に学ばせていただく形になり、郡の研究委員会としての取り組みはあまりできなかった。

日滝小学校の取り組みのように、6年間の見通しを持った生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムは大変勉強になった。とくに、英語学習に関しては今後、各校のカリキュラム作成にあたっての指針になると思う。

## 3 研究の成果

生活科では、子どもたちが主体的に生き生きと活動する姿から、目当てをハッキリさせることや班活動における子どもたち役割分担を意識させることの有効性が具体的に示された。

3年生の総合的な学習では、いつか劇を発表するという見通しがあるため、とても意欲的に取り組み、子どもたちの「やりたい」という気持ちが表れていたと同時に、「できた」「わかった」という満足感が持てた調べる学習が展開された。

6年生の英語学習では、先生も子どもたちも楽しみながら英語を使いながらの授業が展開された。普段小さな声の子も、今日は大きな声、そして笑顔で授業に参加していたことから、楽しみながら英語に親しむというねらいは十分に達成されていたように思う。

日滝小学校の実践のように、「国際理解」「環境教育」「福祉ボランティア」「情報教育」の4つの領域に視点を当て、年間計画に位置づけ研究を進めていることに、今後の生活科・総合的な学習の時間の方向性が示唆されていたように思う。

具体的には6年間を見通して、「国際理解(英語学習)」「環境教育(エネルギー教育またはエコロジー教育)」「福祉ボランティア(学年独自の学習および他教科・他領域との関連から題材を決める)」「情報教育(パソコンの活用)」のカリキュラムが組まれている。

#### 4 来年度への課題

- (1) 子どもたちが地域のよさを感じながらかかわりを深めていくことができる地域素材の開発。
- (2) 子どもたちの願いをくみ取り、それが授業にいきるように支援すること。
- (3) 1時間1時間ごとや題材ごとの活動の振り返りをする場の工夫。
- (4) 地域との継続した関係を作ることや、学校としてつける力を明確にし総合の時間の目標と内容の全体計画を作ること

#### 5 要望事項

- (1) 参加者のアンケートの中に、「生活科と総合的な学習の時間は分けた方がよい」という声があった。しかし、授業校がさらに1校増えることを考えると難しい。
- (2) 研究推進委員会と各学校の研究部会との関わり方が難しい。